

令和3年度 山梨県立甲府西高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

山梨県立甲府西高等学校校長 初鹿野 仁

学校目標・経営方針	自主・自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つけ、高い理想のもと広く社会で活躍する人材を育成する。
-----------	---

本年度の重点目標 「自分を律し、自己を高めていく」人間力の育成を目指し、以下に取り組む。	1 学び方を学ばせる視点のもと、主体性を引き出す深い学びを推進し、物事を深く掘り下げ、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成に努める。
	2 自己実現を図る進路目標の設定とその達成に向けた取組を支援し、自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成に努める。
	3 部活動や学校行事、学校外活動など、様々な経験ができる機会を提供し、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長できるよう努める。
	4 PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かすなど、時代のニーズに応える特色ある教育活動の構築と推進に努める。

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価						
番号	評価項目	本年度の重点目標		年度末評価(2月15日現在)		
		具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体性を引き出す深い学びを推進し、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成	「問いを立て追究する」という生徒の探究力向上を目指し、深い学びを提供する授業改善に取り組む。	教員の自己評価 教員アンケート 授業アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学びを意識した授業実践を各教員が積極的に進めており、生徒も学習の深まりを実感している。 各教員が積極的にICT機器を利用した授業を実践し、スキルの向上も見られ、生徒も有効性を実感している。 課題論文についての各教員の経験値が高まりを見せており、指導計画も洗練されてきている。 	
		教員のICT活用指導力を向上させ、各教科等の目標を達成するためにICTを利活用できるようにする。	教員の自己評価 教員アンケート 授業アンケート			
		課題論文やIBを中心に据えながら、探究型学習プログラムや教育課程の開発整備に努める。	教育課程の編成 課題論文の指導計画 学校評価アンケート			
2	自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成	生徒の学力向上に資する指導改善に向け、学びの基礎診断の結果をもとに生徒の基礎学力の分析と対策を適切に行う。	GTZ指標の変動 教員相互の授業評価シート	B	<ul style="list-style-type: none"> 学びの基礎診断の結果を分析し、生徒の学力の現状と課題を元に必要な方策を実施するように努めている。 コロナ禍においても、オンラインにより、校内課外や進路講演会等を実施した。 学習手帳の利用やオンラインによる面談など、各教員は創意工夫しながら、個別の指導にあたっていた。 	
		進路講演会や進路ガイダンスを適切に配し、入試等への理解度を高めるとともに、目標達成に向けた学力向上に資する課外や講座等の効果的な実施に努める。	大学合格状況 学校評価アンケート			
		目標を意識し、その達成に向けて自主的に取り組む自己管理能力を向上させるため、学習手帳の利用を進め、面談や個別指導等に活用する。	学校評価アンケート			
3	部活動や学校行事、学校外活動などにより、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中での成長を支える	豊かな人間性や人間関係形成能力の育成を図るため、生徒及び指導者のフューリングバランスの視点も含めながら、学校行事や部活動等のあり方を見直すことにより、生徒の主体的な取組を促す指導を推進する。	学校評価アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> 学業と部活動の両立のための環境を整備するとともに、生徒の主体性を生かした行事の運営が行われた。 外部との接触が制限される中でも、留学生を積極的に受け入れたり、オンラインによる国際交流を新たに導入するなどした。 保健安全部を中心に教職員が連携をとりながら生徒相談等にあたり、きめ細やかな指導ができています。 	
		社会の一員としての自覚、社会参画への意欲などの醸成に向け、地域貢献や異校種間交流、ボランティア活動など、様々な体験ができる機会の提供に努める。	行事開催状況 学校評価アンケート			
		悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員が連携を密にししながら、生徒一人一人の学校生活のサポートに努める。	生活実態調査 学校評価アンケート			
4	PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かした特色ある教育活動の構築と推進	グローバル化や高度科学技術などに対する素養を身に付けさせるため、同窓会や大学、企業等との連携を図りつつ各種講演会など多様な学びの機会を提供する。	学校評価アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 三菱みらい財団からの助成金を獲得し、批判的思考力や教養を深めるための、有意義な講演会を開催することができた。 1年次生に全員に対して、プレIB講座や2年次DP選択者による発表会などを通して、IB的な捉え方の共有ができた。 ホームページを使った情報発信が、生徒、保護者に対して適切に行われている。 	
		本校の特色化を図り、知的好奇心や探究心などの育成につなげるため、新入生に対してプレIB講座を実施するなど、IBの良さが共有できる教育活動を展開する。	プレIB講座実績 学校評価アンケート 授業アンケート			
		教育活動の充実改善に生かすため、ホームページを単なる情報発信に留めず、双方向的に利用し意見や要望聴取に努めるなどして、有効に活用していく。	HPアクセス数 学校評価アンケート			

学校関係者評価	
実施日(令和4年3月7日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> 課題論文が探究学習として主体性を引き出す深い学びにつながっている。 全教員で取り組んできた授業改善の成果が徐々に表れてきている。 積極的にICTを活用し、授業を実践し、ICTスキル向上に取り組んでいる。 IB導入により、「主体的・対話的・深い学び」を意識した授業改善が行われている。履修生徒数はまだ少ないが、今後さらなる発展を期待したい。 コロナ禍であるからこそ、主体的に考え行動する機会を、生徒にたくさん提供し、学びや成長に繋げて欲しい。 生徒一人ひとりの学力に応える授業が展開され、探究活動が積極的に取り入れられている。 授業改善のためにも、「西高スタンダード」のような授業モデル一覧を作成できるとよい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習状況を把握する体制ができています。PDCAを行いながら、必要な対策を講じていただきたい。 効果的な個に応じた指導のため、更に「学び方を学ぶ」指導に力を入れる必要がある。 様々な経験を積ませ、自ら考え行動して自己の可能性を拡げて欲しい。 オンライン等を積極的に取り入れて指導に当たっている。 平時における課題の量と質については、個に応じた課題の取組に不公平感が出ないように留意しつつ、共通理解をもって年次間と教科間でバランスを取ってほしい。 大学合格だけが目標とならないよう、あらゆる機会を通して校訓の意味を常に考えさせる、意識させる取組を職員全体の共通認識のもと、進めてほしい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 部活動と学業の両立は大きなやりがいがある。適切なタイムマネジメントによる取組を行い、学校全体で統一した考え方で進めてほしい。 留学生の受け入れや、オンラインでの国際交流など、生徒の視野を広げる努力をしている。今後もInternational-mindednessの醸成に努めていただきたい。 IBなどの新しい取り組みをさらに充実させていただきたい。 コミュニケーションが制限されたことによる悪い影響が先々響かないか心配である。特に郷土愛や母校愛を醸成できるよう、今後のフォローが必要である。 各種行事で、新たな方法や内容を積極的に取り入れ、新たな歴史を刻んでいるように感じる。 教育相談は、今後も、一人ひとりに寄り添った温かい支援を期待する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲を引き出す努力がされており、成果が期待できる。 土曜日の特別講座や、オンライン面談を実施するなど、コロナ禍においても新しい試みに取り組んでいる。 異校種間交流や地域のボランティア活動は、生徒のリーダーシップを養う大切な活動である。地域とのつながりを深める継続的な取組が必要である。 創立120周年や地域の事業などを活用し、同窓会や地域との連携を深め、生徒の学びや成長の機会に繋げてほしい。 HPの作成に工夫が感じられた。 各種広報誌等を通して、生徒、保護者、地域に情報が適切に発信され、開かれた教育活動が実践されている。 IBの取組が広く伝わり、理解と支援が得られるよう取り組んでほしい。

留意点 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。